

(試験研究課題年次別解説集様式3号：完了課題用)

マダイ種苗生産における 生産効率の向上に関する研究

(予算区分 県単 研究期間 平成14～16年度)

栽培漁業センター

【研究の背景とねらい】

マダイ種苗生産での生産効率の向上のため、餌料系列を見直すことにより種苗の質の向上と生産量の安定を目指しました。本年度はマダイ稚魚による実質的な摂餌量の変化を把握しました。

【研究成果】

マダイ飼育水槽に給餌するワムシの量と水槽から流出するワムシの量を調べ、マダイ稚魚の摂餌状況を把握しました。



日常の飼育管理



マダイ孵化直後の仔魚(10日)



流出するワムシを回収する排水口

: 40t 飼育水槽でのマダイ仔魚のワムシ摂餌量は、成長に伴い 3 億個体/h まで増加しました。

: 稚魚を間引くと一時減少したが再び 3.5 億個体/h まで増加し、その後安定しました。

この規模の飼育水槽の最大摂餌量は 3 億個体/h と判断されました。

【成果の普及方法】

平成 17 年度より種苗量産業務が委託化されるので、その生産システムに組み入れられるよう指導します。

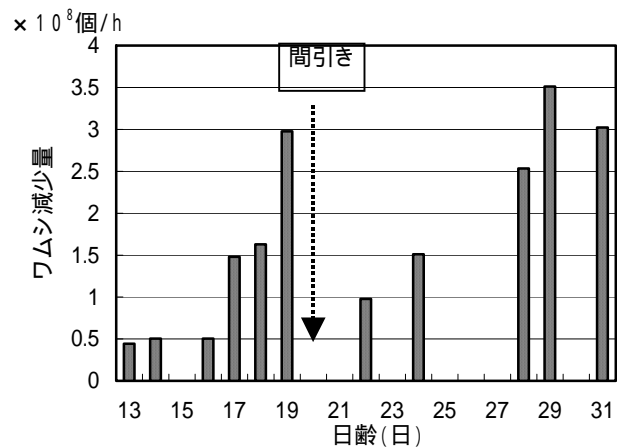


図 ワムシ摂餌量の変化

(作成 平成 17 年 3 月)